

三豊市における3歳児眼科健診の過去10年間の変化と成果

津留 江美子
医療法人 明世社 白井病院 | 視能訓練士

はじめに

三豊市は香川県の西部に位置する人口約57,000人の自然豊かな街です。三豊市での3歳児眼科健診における視能訓練士の参加は、1997年旧高瀬町、三野町での3歳児健診から始まり、2025年現在まで当院の視能訓練士が担当しています。私は約20年前より健診に携わっています。今回のレポートでは、三豊市での3歳児眼科健診内容と過去10年間の変化について報告いたします。

健診内容

健診は毎月1~2回木曜日に開催され、当院から視能訓練士2名と看護師2名が参加しています。実施年齢は3歳6か月、受診者数は15人前後/回、実施時間は約1時間30分です。

健診内容は、①家庭での視力検査練習の確認、②スポットビジョンスクリーナー(以下SVS)による屈折検査、③Lang StereoTest®での立体視検査、④ランドルト環での視力検査(5m)、⑤眼位検査、⑥眼球運動検査、⑦輻湊検査の順番で行い、①②③を看護師、④⑤⑥⑦を視能訓練士が業務分担することで検査時間が短縮できるよう努めています。また、健診待ち合いスペースには「斜視」、「弱視」、「遠視・近視」といった専門的な目の疾患についてイラストを多用した啓発ポスターを掲示しています(図1)。

説明 :

要精査となる可能性のある疾患について、専門用語を避け直感的に理解しやすいデザインにしています。

図1 会場に掲示しているポスター



眼科健診の過去10年の変化

当市の3歳児眼科健診の受診者数は、2014年度の493人から直近の2024年度は377人と減少傾向にあります(図2)。今年度においては健診予定児が少数のため実施回数が2回/月から1回/月の開催月も出てきています。このような受診者が減少する状況下においても、健診は一人ひとりの子どもの健康を守るという重要な役割を担っています。

健診結果の変化と成果

受診者数が減少する中でも、2014年度と2024年度の健診結果を比較すると、要精査・再検・治療中を合わせた、何らかの対応が必要な子どもの割合は、2014年度の9%から2024年度の20%へと大幅に増加しました(図3)。これは見逃しの減少を意味しており、弱視、斜視、眼疾患の早期発見に貢献できたと考えられます。

図2 三豊市3歳児眼科健診の受診者数の推移(2014年度～2024年度)

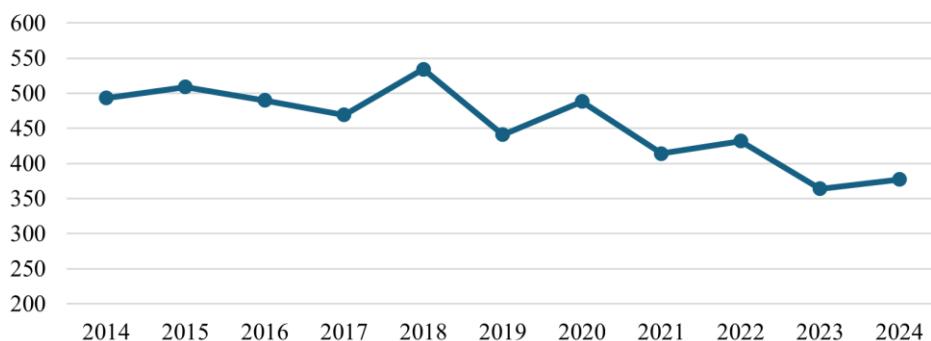


図3 健診結果の内訳

■異常なし ■要精査 ■再検 ■治療中

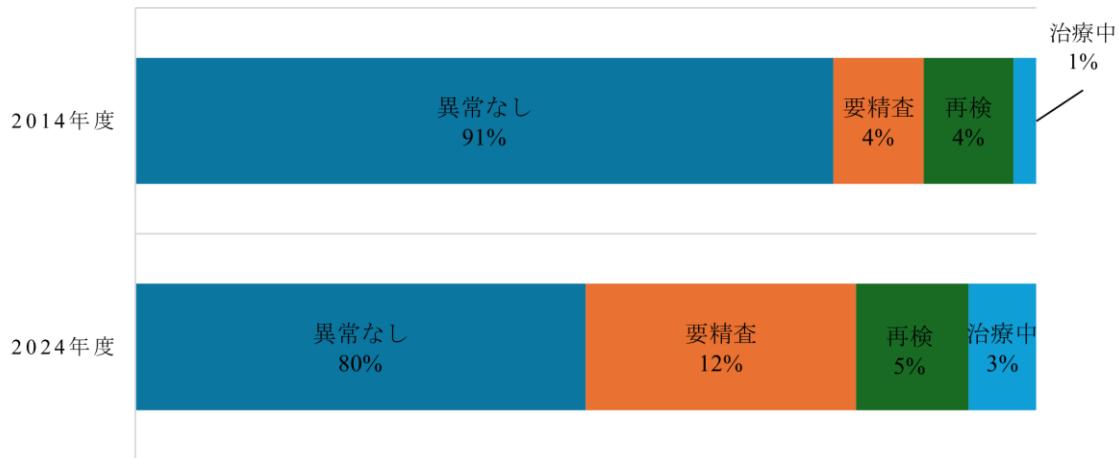
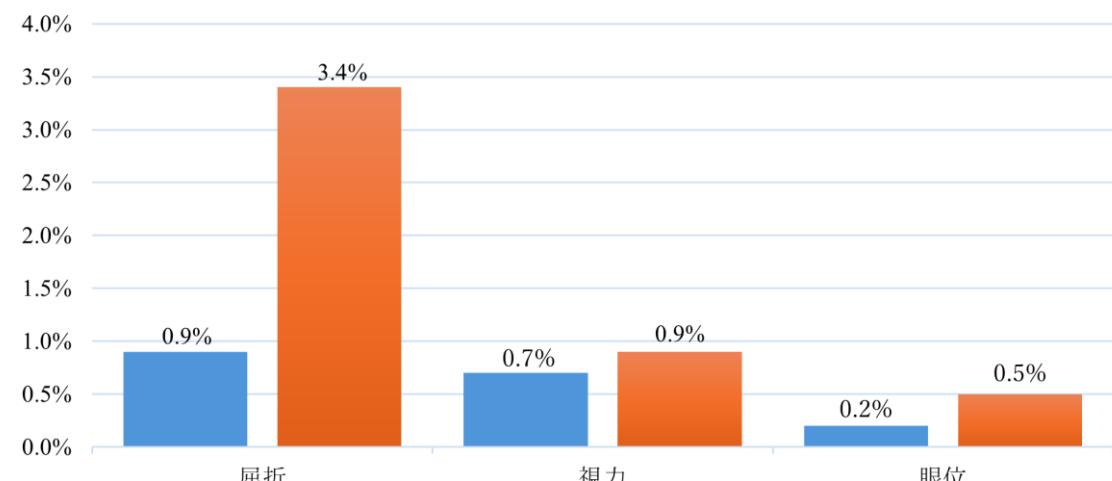


図4 要精査割合の変化

■2014～2016年度 ■2022～2024年度



特に屈折の要精査率は 2014～2016 年度の 0.9%から、2022～2024 年度には 3.4%へと約 3.8 倍に増加しています（図4）。

この最大の要因は、SVS の導入が挙げられます。三豊市では、2016 年度より SVS を導入しました。それまでは、据え置き型レフラクトメーターで屈折検査を実施していましたが、器械近視による調節介入や測定時の姿勢維持が幼児には難しく課題でした。しかし、SVS への切り替えにより、屈折の要精査率を上げることができました。

最後に

今後も、地域の子どもの健やかな目の成長をしっかりと守れるように、見逃さない健診を目指して尽力していきたいと思います。